

国鉄千葉動力車労働組合



千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1989.3.22 / No.2999

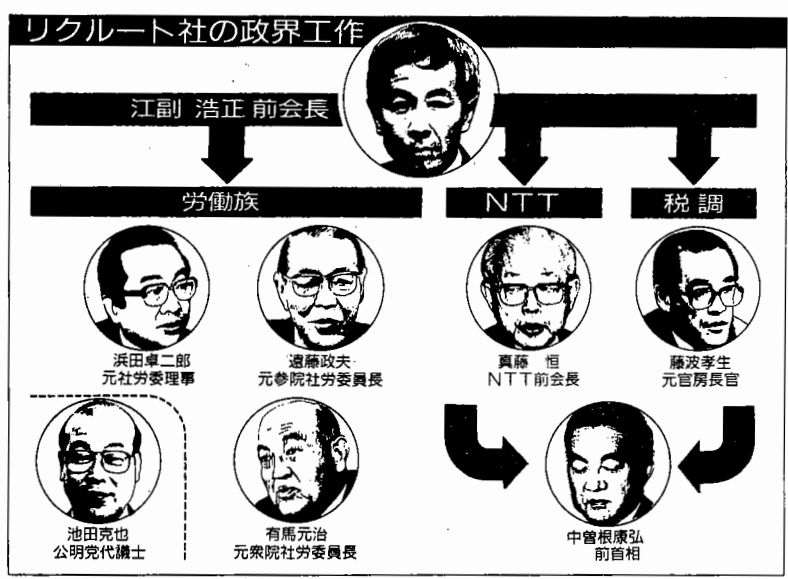


いままこそ 反動 竹下内閣打倒を!

「こんな悪党は許せない!」

中曽根・竹下は「戦後政治の総決算」路線を押し進め、政権を維持していくために、リクルートを取り込み、それに寄生して「濡れ手で粟」の不正金を手に入れ、私腹を肥やしていった。中曽根は政権の座にあった当時、「政治倫理の確立」「政治の浄化」「無駄のない政治」を常に口にしてきた男だ。

そして、国鉄労働者に対しては、「ヤミ・カラ」キャンペーン、「国鉄労働者II国賊論」をぶちあげ、あたかも国鉄労働者が不正な金を懐に入れていたかのようなデマを流し、国鉄労働者と国鉄労働運動におそいかかってきたことを、われわれは絶対に忘れはしない。この盗人タケダケしい厚顔無恥の中曽根を絶対に許してはならない。とんでもない悪党だ!



多額の不正金を入手する一方で、労働者を「悪者」にしたて上げ弾圧してきた悪党ども!!

竹下の「消費税導入」は、貧しき者、つましく暮らしている庶民の懐に手をつたせようとする大衆収奪攻撃である。絶対に粉砕しなければならぬ。竹下内閣の支持率が二〇%を大きく割り込み、十五%にまで落ち込んだ。一方不支持率は七六%にまで急昇している。国民はリクルートや消費税に腹の底から怒っているのだ。いまこそこの怒りを解き放ち、反動竹下内閣を打倒するために奮闘しなければならない。ニューリーダーともてはやれ、鳴り物入りで登場した竹下、その竹下はいまや絶体絶命の断崖絶壁に追込まれている。ここでもう一押しすれば竹下は打倒されるのだ。どうしてこの絶好のチャンスを手放せようか。しかも自民党には竹下をかえようにもかえることができないお家事情がある。自民党は上から下ま

支持率最低の竹下!

で完全に汚染されきって、竹下にとつてかわるべき「タマ」がないのである。だが哀しいかな、いまの社会党、共産党には政権政党としての力も魅力も持ち合わせていない。

河野車務課長は人事に口を出すことはありえない? 当局側証人・出口人事課長 木戸君脱退強要事件地労委闘争 3/8 次回は4/6 川名証人

三月八日、木戸君に対する組合脱退強要事件の第六回審問が、千葉地労委で開かれた。今回からは、当局側証人の尋問である。河野らによる組合脱退強要の事実、すでに組合側、中野、木戸、押垂三君の証言と多くの証拠によって、全面的に明らかとなっている。当局側は、反対尋問のなかでも、(当然にも)何ひとつ具体的な反論をおこなうことができない状況である。この日、証人にたった出口人事課長も、証言したことと言えば、運輸課・総務課の職務権限と、

実力決起で反動竹下を打倒しよう! 六十年安保闘争は、反動岸内閣を打倒した偉大な闘いである。連日国会は「安保反対」のデモで包囲され、職場から、学園から洪水のように民衆

3.26三里塚に総決起しよう!

が起ちあがっていった。いまこそこうした実力決起が求められている時はない。三・二六三里塚を突破口に反動竹下内閣打倒の実力闘争に総決起しよう! 乱世こそ時代変革の絶好のチャンスである。

出向制度の説明だけで、何のために出て来たのかわからないようなあり様であった。しかし、ひとつだけありありとうかがえるのは、他の者に責任をなすりつけてでも、河野だけは救済しようという意図であった。しかし、「車務課長が人事に口を出すことはありえない」と思いますが(出口)と言えは言うほど、だとしたら、何故人事課が面接をおこなわないで河野がノコノコ出てきて二回も面接をおこなったのか? 疑問と矛盾が拡大するばかりである。

次回(四月六日十五時)は、出口証人への反対尋問の続きと、川名(当時、千葉運転区長)証人への尋問がおこなわれる予定である。